

浦川原区

第61号

発行日：令和7年3月25日

発行：浦川原区地域協議会

編集：地域協議会編集委員会

地域協議会事務局

(総務・地域振興グループ内)

地域協議会だより

～1年間の活動を振り返って～

第6期の浦川原区地域協議会委員は、12人中5人が新任の委員であったため、スタート当初は再任された委員の方々に、これまでの経緯などを教えていただくことが多くありました。会議を重ねるうちに、各委員が自ら意見を発信し、意見交換をすることができたと思います。「地域内の視察・現地めぐり」では、現地の人話を聞いたり、現状を見て深く考えさせられる場面もありました。次年度も、浦川原区をより良い地域にするために、地域協議会委員として引き続き協議を重ねてまいります。



▲地域協議会の様子

活動報告 — 令和6年度〈令和6年5月～令和7年3月〉 —

□地域協議会について

日にち	開催状況	協議事項
5/31	第1回	・会長及び副会長選任 ・地域協議会の運営について ・地域協議会だよりの発行及び編集について
6/25	第2回	・令和6年度浦川原区地域協議会活動計画案について
7/30	第3回	・前期委員の申し送り事項について
8/29	第4回	・「地域内の視察・現地めぐり」の実施方法について ・「市政の課題等をテーマとした勉強会」の実施方法について
9/26	第5回	・「地域内の視察・現地めぐり」の実施内容について
12/19	第6回	・「地域内の視察・現地めぐり」の実施に伴うグループワークについて
1/31	第7回	・自主的審議事項の進め方について
3/25	第8回	・上越市消防団浦川原方面隊の組織体制の見直しについて（報告） ・地域独自の予算事業の一覧について（報告）

□地域協議会研修について

日にち	開催状況	研修内容
8/9	浦川原区地域協議会委員研修会	テーマ：地域協議会委員の役割等について 講師：浦川原区総合事務所 岩野次長
11/13	「大・浦・安」地域協議会委員研修会	テーマ：持続可能な地域社会を目指して 講師：上越市創造行政研究所 藤山所長
11/20	地域内の視察・現地めぐり	テーマ①：観光資源のアピールによる地域活性化のための視察 テーマ②：既存建物の利活用方法を探るための視察

浦川原区地域協議会



質問コーナー

～委員の想い聞いてみました～



地域協議会委員がどんな人か、少しでも分かるように、質問コーナーを設けました。様々な質問に答えてもらったのでご覧ください。

Q

浦川原区の好きなところは？

- ・山本ぶどう園の展望台から見える眺め。妙高山や焼山の夜景、直江津の花火大会も楽しむことができる。
- ・白山神社の大杉と虫川城。歴史ロマンを感じる。
- ・浦川原の桜。(長走の桜づつみ、中猪子田ふるさと公園、旧ゆあみなど)
- ・春の保倉川と小黒川の合流するところ。(川の水が深い緑色になる季節)
- ・山菜が採れる山。
- ・うらがわら駅。日常生活の中で利用している。また子どもが電車が好きでよく見に行っていた。地元に駅があるのはよい。
- ・うらがわらまつりや大浦安元気市、小さな文化祭、灯の回廊などの区内のイベントは、子ども、家族と一緒に楽しめる。
- ・他人から見れば何の変哲もないが、自宅から見える春夏秋冬の風景。



Q

地域で解決しなければならない課題は？

- ・これから迎える急激な人口減少に対し、現状を維持できるか、5年先、10年先を見据えた取組を考えなければならない。
- ・若い人の定住。少子高齢化、嫁・婿対策。
- ・町内会で人がいない、若手がいらない現状の中で、地域の活動維持が困難になっている。どのタイミングで何を残し、何を止めるか考える時期が来ている。
- ・地域のことにみんなが関心を持つこと。またきっかけをどこが作るか。
- ・時代を担う人材の発掘と地域コミュニティづくりと、地域社会の一体化。
- ・買い物や受診時等の足の確保。
- ・地域内で商店街がなくなりつつあり、浦川原区で用が足せなくなってきたこと。
- ・山本ぶどう園の再生。栽培者から一画を借り、管理や収穫作業を体験し、ぶどうを受け取るような、ぶどうの木のオーナー制度があったら良い。
- ・他市、他地区への人口の流出。

Q

住民が地域づくりにもっと参加するためには、どのような取組が必要？

- ・地域づくりの旗振りができる人材を育成する仕組みをつくること。また若い世代がもっと活動できるような組織の創設。
- ・町内会活動の充実とリーダーの育成。
- ・地域づくりは自主的活動（ボランティア）がほとんど。自分事と捉えてもらう啓発を各コミュニティで行ってもらうこと。
- ・区内の大勢の人たちが集い、話し合う機会をつくること。
- ・4地区の地域コミュニティを地域組織として組み入れた NPO 住民組織体制に強化。住民意識の醸成と活性化を図ること。
- ・大人になってから地域づくりに参加することは難しいので、子どもころから地域のことを考える機会があれば良い。
- ・まずは地域づくりに関心を持つところから。
- ・地域協議会と各種団体等が協働する関係性を築かなければならない。
- ・気軽に参加できる視察ツアーがあったらよい。
- ・職員 1 人が 1 町内会を担当し、色々な思いを出し合う。



Q

地域のために活動して、嬉しかったエピソードは？

- ・うらがわらまつりで、出店した際に子どもたちの喜ぶ顔が見られたこと。
- ・えちご・くびき野 100 キロマラソンにボランティアとして参加し、全国から参加したランナーや、応援の人たちと話ができたこと。
- ・緑と自然の宝庫「中保倉お宝道開設」で、地域外から多くの人に来ていただき、また、サブルートの霧ヶ岳登山道にパノラマ板を設置し、現在も多くの登山者が利用されていること。
- ・地区の祭りで、小さい子どもが楽しめるようにゲームを作り、喜んでもらったこと。
- ・田舎体験に来た小・中学生への支援をしたこと。
- ・地域のことに目が向けられるようになったこと。
- ・顔を合わせた時に、挨拶したり、話ができたとき、色々な活動をしてきて良かったと思う。
- ・残念ながら今はない。ただこのままではいけないと思い、地域協議会に参加している。
- ・地域・団体の中で合意形成に加わったとき、ホッとする瞬間が好き。

Q

10 年後、浦川原区がどのように発展してほしい？

- ・うらがわら駅を中心に商店街を復活させ、人が集まり活気ある地域にしたい。
- ・飲食店が増え、夜のまちに活気が戻ってほしい。
- ・旧ゆあみや、旧小学校が利活用されてほしい。
- ・未来を担う子どもが多くいてくれれば良い。
- ・都市機能の充実、集約。農林業の発展。
- ・現状をどれだけ長く維持できるか。
- ・相互扶助で繋がり、体も心も元気で豊かに暮らせる浦川原区。
- ・人口が増え、区外から浦川原へ来てもらえる観光資源があってほしい。
- ・発展というより、生きていて楽しい浦川原であってほしい。
- ・自然に囲まれた住みやすい場所として発展。
- ・少なくとも、私が浦川原区に居住して、区の内外に働き続けられる環境が整備されること。



Q 休日の過ごし方やリフレッシュ方法は？

- ・地域外に出て用を済ませたり、遊びに行く。
- ・何も考えずにぼーと過ごす時間。
- ・夏の休日のほとんどは農作業。草刈りは辛いですが、刈り終わった後の達成感と、きれいに刈れた後の法面を見ると癒され、気分が晴れる。
- ・休日は晴耕雨読。リフレッシュ方法はとにかく走ることに。
- ・TV映画視聴。庭の手入れ。野草との出会いを楽しみに山歩きや山菜取り。
- ・70年代、80年代の洋楽のYouTube鑑賞と読書（土井善晴著）。
- ・花の手入れや手芸。
- ・子どもが小さいので、遊び相手兼癒しとして元気をもらっている。
- ・お菓子づくりや温泉めぐり。
- ・自然の中を歩いて恵みをいただく事。
- ・自然を写す「寄植え盆栽」の手入れ。



ラウラ

地域協議会委員は色々なことを考えてくれているんだね！

地域で困ったことがあったら、地域協議会委員に相談してみよう！



リウラ

【委員からのお知らせ】

地域でお困り事などありましたら、ぜひ身近な委員にお声掛けください。また、地域協議会とはどなたでも傍聴できる会議です。開催日は、防災行政無線でお知らせするほか、市のホームページをご覧ください。

右記の二次元コードに浦川原区地域協議会の活動内容と過去の地域協議会だよりが掲載されていますので、ぜひご覧ください。

詳しくは、浦川原区総合事務所・地域振興グループまでお問合せください。

【編集後記】

昨年4月に新しい地域協議会委員が選任されました。新任の私は、何をどのようにするのが全く分からず、戸惑うばかりでしたが、研修や体験、知識を得てぼんやりと活動の実態が見えてきたように感じています。どんなことも経験のないことを行うときは不安があります。ただ、やってみて新しいことを学んだり経験することは、活力を与えてくれることを実感しています。

編集委員：北澤正彦・竹内登美子・西山正成・水澤幸博



地域協議会
の活動状況



過去の地域
協議会だより